

鯖江市

消防出初式



日時： 令和5年1月7日（土）

場所： 鯖江市嚮陽会館



Facebook



Instagram



Twitter



令和5年

鯖江市消防出初式

1 日時

令和5年1月7日(土)

8時30分～10時40分

2 場所

(1) 式典

鯖江市嚮陽会館 多目的ホール

(2) 分列行進(徒歩隊・常備車両)

鯖江市嚮陽会館 駐車場

(3) 消防音楽隊による演奏

〃

(4) 石田分団まとい演技

〃

(5) 一斉放水

〃

(6) 消防三本締め

〃

(7) まとい餅、お札配布

〃

3 参加人員・車両

(1) 消防団員

220名

14台

(2) 自警消防隊員

3隊 30名

(3) 防災関連団体

2団体 30名

(4) 消防職員

60名

3台

4 日程

(1) 式典

8時30分～ 9時20分

(次第)

国歌吹奏

表彰

市長式辞

団長訓示

来賓祝辞

(2) 分列行進

9時35分～

(3) 消防音楽隊による演奏

9時45分～

(4) 石田分団まとい演技

10時00分～

(5) 一斉放水

10時05分～

(6) 消防三本締め

10時10分～

(7) まとい餅、お札配布

10時15分～

来賓御芳名

(敬称略)

役 職	氏 名
鯖江市議会議長	石 川 修
福井県議会議員	田 中 敏 幸
福井県議会議員	山 本 建
鯖江警察署長	松 村 泰 宏
鯖江・丹生消防組合議会議員	末 本 幸 夫
鯖江・丹生消防組合議会議員	遠 藤 隆
鯖江・丹生消防組合議会議員	福 原 敏 弘
鯖江・丹生消防組合議会議員	佐々木 一 弥
鯖江市議会議員	菅 原 義 信
鯖江市議会議員	玉 邑 哲 雄
鯖江市議会議員	水 津 達 夫
鯖江市議会議員	丹 尾 廣 樹
鯖江市議会議員	平 岡 忠 昭
鯖江市議会議員	木 村 愛 子
鯖江市議会議員	林 太 樹
鯖江市議会議員	奥 村 義 則
鯖江市議会議員	帰 山 明 朗
鯖江市議会議員	山 本 敏 雄
鯖江市議会議員	空 美 英
鯖江市議会議員	大 門 嘉 和
鯖江市議会議員	江 端 一 高
鯖江市議会議員	林 下 豊 彦
鯖江市区長会連合会会長	橋 本 雅 夫
鯖江市防火協会会長	小 嶋 秀 司
鯖江市危機管理監	田 畑 雅 人
鯖江市女性防火クラブ会長	井 波 裕 美
上 氏 家 町 区 長	山 本 達 美
河和田地区区長会長	平 井 喜 浩
河和田町区長	高 野 洋 一
苅生田町区長	高 野 新 吾

主 催 者

役 職	氏 名
鯖江市市長	佐々木 勝 久
鯖江消防団長	中 山 勝
鯖江市副市長	中 村 修 一

受 賞 者 名 簿

(敬称略)

☆福井県定例表彰 (伝達)

○功労章 (1名)

所 属	階 級	氏 名
新横江分団	分 団 長	岸本 直樹

○永年勤続精績章 (3名)

所 属	階 級	氏 名
片上分団	分 団 長	田原 一
〃	副分団長	中出 和裕
機能別分団	団 員	堀 鉄治郎

○感謝状 (1名)

所 属	階 級	氏 名	夫人氏名
新横江分団	班 長	木水 友造	木水 とも子

○無火災竿頭綬 (3箇分団)

所 属	無火災期間
惜陰分団	1年7ヶ月
新横江分団	6年0ヶ月
石田分団	2年0ヶ月

☆福井県消防協会定例表彰（伝達）

○功労章（2名）

所 属	階 級	氏 名
北中山分団	分 団 長	堀川 秀樹
鳥羽分団	分 団 長	橋本 秀次

○表彰章（4名）

所 属	階 級	氏 名
惜陰分団	分 団 長	堀江 崇
石田分団	副分団長	牧野 西男
片上分団	副分団長	中出 和裕
河和田分団	副分団長	真保 良弘

○永年勤続精績章 4名

所 属	階 級	氏 名
立待分団	分 団 長	野尻 敏弘
豊 分 団	団 員	笠原 康通
機能別分団	団 員	旭 幹男
〃	団 員	水島 彰宏

☆団長表彰

○功労章（25年）6名

所 属	階 級	氏 名
立待分団	分団長	野尻 敏弘
神明分団	副分団長	吉村 修
豊分団	団員	笠原 康通
機能別分団	団員	旭 幹男
〃	団員	高居 竜一
〃	団員	水島 彰宏

○功績章（20年）3名

所 属	階 級	氏 名
片上分団	分団長	田原 一
〃	副分団長	中出 和裕
吉川分団	団員	濱田 啓資

○精績章（15年）2名

所 属	階 級	氏 名
吉川分団	班 長	江指 憲男
惜陰分団	団員	山内 謙信

○精勤章（10年）9名

所 属	階 級	氏 名
河和田分団	班 長	田中 隆雄
〃	班 長	富田 忠志
進徳分団	団員	黒田 和亨
惜陰分団	団員	末永 恭朗
中河分団	団員	飯田 智康
片上分団	団員	山本 雄介
立待分団	団員	笠島 慎一
吉川分団	団員	加藤 純一
〃	団員	市村 秀昭

○山型章（5年）19名

所 属	階 級	氏 名
機能別分団	班 長	石本紀久江
鳥羽分団	団員	清水 裕志
吉川分団	団員	加藤 佑一
豊分団	団員	永田 典広
北中山分団	団員	舘田 寛
河和田分団	団員	森下 洋輔
〃	団員	加藤 勇一
機能別分団	団員	加藤 純子
〃	団員	早瀬 尚美
〃	団員	浜本さち江
〃	団員	宮越 若葉
〃	団員	高嶋 真弓
〃	団員	中嶋 恵美
〃	団員	高島 美幸
〃	団員	三好 理恵
〃	団員	佐藤 志保
〃	団員	西村 里美
〃	団員	紫 宇代
〃	団員	窪田 直美

○無火災表彰（5箇分団）

惜陰分団
新横江分団
片上分団
石田分団
北中山分団

纏(まとい) 振りの歴史探訪

纏振りの歴史は約300年前の江戸時代にさかのぼります。

当時は効果的な消火方法がなく、いったん付いた火をわずかな水で鎮めることは非常に困難であったため、火のついた建物は破壊して火事の広がりを防ぐ、破壊消防が主な消火活動でした。

その消火活動の中心的な役割を担ったのが皆さまもご存知の町火消であり、素早い家屋解体が可能だった「とびにんそく 鳶人足」により、その主力メンバーが構成され、いざ火事が起こると「かじしょうぞく 火事装束」と呼ばれる「さしこはんてん 刺子半纏」に身を包んだ纏持ちと、梯子係が現場に駆けつけ屋根の上で纏を振りかざし、燃え盛る火の粉を纏で振り落とし、延焼を防いだと言われております。また、当時は一番纏をとることが名誉であったため、町ごとに区割りを決めてありましたが、火事はどこで起こっても、区割りに関係なく誰よりも早く現場に駆けつけ、現場に着いたものから屋根にあがって纏をあげたそうです。

「火事と喧嘩は江戸の華。そのまた火消しは江戸の華」という言葉がございます。江戸は非常に大火が多く火消しの働きぶりが華々しかった事と、江戸っ子は気が短く喧嘩っばやい威勢のよさが特徴の一つであることを想像すると、火消しには喧嘩がつきものであったことが、伺えるのではないのでしょうか。

(参考:消防博物館)





令和5年災害件数 ※()内は令和4年との比較

	鯖江市	越前町	管外	合計
火災件数	23件 (7件増)	10件 (3件増)	—	33件 (10件増)
救急件数	2605件 (456件増)	829件 (21件増)	3件 (4件減)	3437件 (473件増)
救助件数	47件 (4件減)	16件 (13件減)	0件 (1件減)	63件 (18件減)

「消防団 入って広がる 防火の輪」
女性・学生・若者 消防団員募集中



福井県消防団 PR キャラクター
「カニ防」